

2009年(平成21年)12月期 第2四半期累計 財務・業績 概況

株式会社 ノーリツ
代表取締役社長 神崎茂治

本資料に記載されております当社の将来の業績に関わる見通しにつきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。

2009年(平成21年)12月期 第2四半期累計 連結経営成績①

●第2四半期累計 連結経営成績

- ◆経営環境悪化による売上高減少に、歯止めがかからず
◇コスト構造の見直しにより利益面はいずれも改善

(単位：百万円)

連結	08年(H20)12月期	09年(H21)12月期		
	第2四半期 累計	第2四半期 累計	対計画 増減率	対前年 増減率
売上高	86,375	80,034	△6.9%	△7.3%
営業利益	530	862	43.7%	62.6%
経常利益	1,006	1,424	78.0%	41.6%
四半期純利益	176	707	—	301.7%

(参考資料) 2009年(平成21年)12月期 第2四半期累計 連結経営成績②

●四半期別 連結経営成績

◆第2四半期は第1四半期よりも需要減少が著しい

◇売上高減少に伴う粗利益減を、コスト構造の見直しでカバーし
営業利益の黒字化を図った

(単位：百万円)

連結	09年(H21)12月期			
	第1四半期	対前年 増減率	第2四半期	対前年 増減率
売上高	42,661	△6.8%	37,373	△8.0%
営業利益	791	△30.3%	71	—
経常利益	1,221	30.3%	203	194.2%
四半期純利益	981	305.4%	△274	—

2009年(平成21年)12月期 第2四半期累計 連結経営成績③

●営業利益増減要因

(単位：億円)

連結営業利益増減要因 (前年対比)	金額	
	プラス	マイナス
台数増減や商品ミックスなど		△ 29.5
販売価格変動		△ 3.5
原材料費変動	4.2	
製造費用増減	5.8	
販管費増減	26.6	
為替影響		△ 0.3
合計	36.6	△ 33.3
営業利益増減額	3.3	

◆総需要の減少により、温水機器、住設システム機器ともに販売台数が減少した。

◆住設システム機器は普及価格帯商品の構成比が拡大した。

◇原材料費、製造費用低減は計画以上に進捗した。

◇グループ会社含め販管費全ての項目を見直し、合計26,6億円削減した。

2009年(平成21年)12月期 第2四半期累計 連結経営成績④

●経常利益、四半期純利益増減要因◆経常利益について

(単位：億円)

連結営業外収支増減要因 (前年対比)	金額	
	プラス	マイナス
為替差損益	4.6	
受取利息・配当金ほか		△ 3.8
合計	4.6	△ 3.8
営業外収支増減額	0.8	

◇営業外収支は0.8億円(前年同期比)改善。経常利益は41.6%増(前年同期比)となった。

◆四半期純利益について

◇投資有価証券評価損を5億円計上したが、繰越欠損金に関する税効果などにより301.7%増(前年同期比)となった。

2009年(平成21年)12月期 第2四半期累計 セグメント情報①

●第2四半期累計 セグメント情報

(単位：億円)

連結	08年(H20)12月期		09年(H21)12月期			
	第2四半期累計		第2四半期累計			
	売上高	営業利益	売上高	対前年増減率	営業利益	対前年増減率
国内温水空調機器	537	14	491	△8.6%	9	△35.7%
海外温水機器	77	△1	74	△3.9%	2	—
住設システム機器	98	△7	86	△12.2%	△8	—
厨房機器	106	△3	108	1.9%	△0	—
その他	45	3	39	△13.3%	4	33.3%
連結合計	863	5	800	△7.3%	8	60.0%

◇国内温水空調機器

- ・温水総需要の減少、特に新設需要の落ち込みにより、温水機器の販売台数が93%(前年同期比)となった。環境配慮型商品「エコジョーズ」「エコフィール」は増加したが、売上高、営業利益ともに減少した。

◇住設システム機器

- ・住設システム機器の総需要が落ち込み、システムキッチンの販売台数は83%(前年同期比)システムバスの販売台数は93%(前年同期比)となり、売上高は減少し、営業利益も赤字幅が拡大した。

◇厨房機器

- ・厨房機器総需要の減少、特にキッチンメーカー向けの台数が落ち込み、販売台数は93%(前年同期比)となった。一方、取り替え需要での販売が好調で、売上高が増加し、営業利益の赤字幅が縮小した。

(参考資料) 2009年(平成21年)12月期 第2四半期累計 セグメント情報②

●四半期別 セグメント情報

(単位：億円)

連結		09年(H21)12月期			
		第1四半期	対前年 増減率	第2四半期	対前年 増減率
国内温水空調機器	売上高	277	△7.6%	213	△9.5%
	営業利益	10	△39.3%	△1	—
海外温水機器	売上高	32	△10.5%	41	2.4%
	営業利益	1	—	2	—
住設システム機器	売上高	42	△8.4%	44	△14.9%
	営業利益	△5	—	△3	—
厨房機器	売上高	54	5.5%	54	△1.4%
	営業利益	△1	—	0	—
その他	売上高	19	△13.9%	19	△10.4%
	営業利益	2	50.6%	2	20.0%
連結合計	売上高	426	△6.7%	373	△7.9%
	営業利益	7	△30.3%	0	—

(参考資料) 2009年(平成21年)12月期 第2四半期累計 主要品群販売台数

●第2四半期累計 主要品群販売台数

(単位：千台)

連結		08年(H20)12月期 第2四半期累計		09年(H21)12月期 第2四半期累計				
		台数	シェア	需要	前年比	台数	前年比	シェア
温水機器	ガス風呂釜	313	40%	729	93%	283	90%	39%
	ガス給湯器	201	34%	543	92%	191	95%	35%
	石油給湯器	61	38%	155	96%	61	100%	39%
	小計	575	37%	1,427	93%	535	93%	37%
	S B (戸建)	14	4%	313	92%	13	93%	4%
	S K (戸建)	6	2%	267	90%	5	83%	2%
	洗面	48	6%	753	91%	47	98%	6%
	ビルトインコンロ	179	35%	463	90%	165	93%	36%

※需要は全て当社推定

※ビルトインコンロは1口除く

2009年(平成21年)12月期 第2四半期累計 海外事業①

●第2四半期累計 海外事業

(単位：台数：千台、売上高・営業利益：億円)

連結	08年 (H20) 12月期			09年 (H21) 12月期		
	第2四半期累計			第2四半期累計		
	台数	売上高	営業利益	台数	売上高	営業利益
北米	32	29 (28百万US\$)	—	32	28 (30百万US\$)	—
アジア	172	40	—	181	38	—
その他	33	9	—	29	8	—
合計	238	78	△ 1	243	75	3

- ◇売上高 (北米) 販売台数は微増。しかし、商品ミックスの改善により現地通貨ベースで増収となった。
(中国) 販売台数が増加し、現地通貨ベースも増収となった。

- ◇営業利益 08年までに上海新工場、北米拠点政策などの先行投資が一段落しこれらを活用した営業活動と原価低減、経費削減により黒字転換が図れた。

2009年(平成21年)12月期 第2四半期累計 海外事業②

◇北米

- 環境、省エネ商品の拡充(コンデensing給湯機器ほか)
- 新規取引先の拡大とホームビルダーの採用拡大
- ショールーム、トレーニングセンターの活用
- 経営コストの削減(広告宣伝費、人件費など)



◇アジア 中国

- 高品質、高機能な安全、安心商品の開発(コンデensing給湯機器ほか)
- 大手家電量販店に加え
専売店、ガス会社、大手デベロッパー、OEMなど取引先の拡大
- 上海新工場の本格稼働
 - ・上海新工場の稼働率向上
 - ・出荷先の拡大(豪州、イタリアを追加)
 - ・製造原価の低減
部品の中国調達、内製化の推進 / 工場統合による経費の削減
部品点数の削減及び仕入コストの低減
- 経営コストの削減

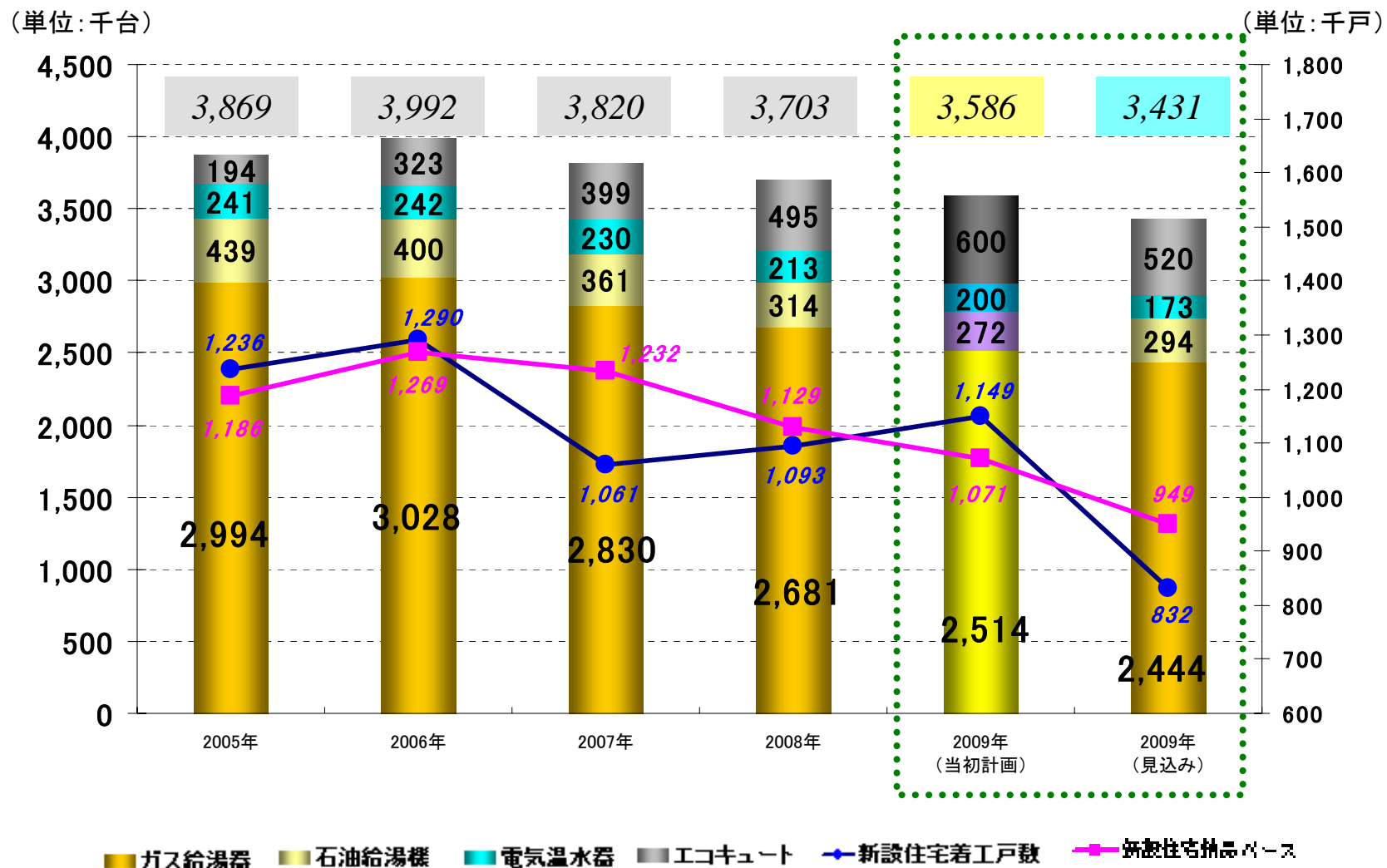
◇その他

- 豪州、ブラジル(OEM)、欧州にて温水機器の販売数量が増加
ロシアでは業務用給湯機器の商品性能の評価が高まる

2009年(平成21年)12月期
通期
財務・業績 予想

株式会社 ノーリツ

(参考資料) 2009年(平成21年)12月期 新設住宅着工戸数と温水機器需要想定



※需要は全て当社推定

2009年(平成21年)12月期 連結経営成績予想①

●通期連結経営成績 予想

(単位：百万円)

連結	08年(H20)12月期		09年(H21)12月期				
	第2四半期 累計	通期	通期 (当初公表値)	第2四半期 累計	対前年 増減率	通期 (修正公表値)	対前年 増減率
売上高	86,375	181,254	180,000	80,034	△7.3%	165,000	△9.0%
営業利益	530	3,445	3,500	862	62.6%	2,200	△36.1%
経常利益	1,006	3,102	3,900	1,424	41.6%	3,000	△3.3%
当期純利益	176	△1,796	500	707	301.7%	500	—

2009年(平成21年)12月期 連結経営成績予想②

●通期営業利益増減要因 見込み

(単位：億円)

連結営業利益増減要因 (前年対比)	通期 (当初計画)		通期 (見込み)	
	プラス	マイナス	プラス	マイナス
台数増減や商品ミックスなど		△ 9		△ 64
販売価格変動		△ 8		△ 10
原材料費変動	10		14	
製造費用増減	2		13	
販管費増減	5.5		34	
為替影響		0		0
合 計	17.5	△ 17	61	74
営業利益増減額	0.5		△ 13	

2009年(平成21年)12月期 連結経営成績予想③

●通期セグメント情報 予想

(単位：億円)

連結	08年(H20)12月期				09年(H21)12月期					
	第2四半期累計		通期		通期					
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高 (当初公表値)	営業利益 (当初公表値)	売上高 (修正公表値)	対前年 増減率	営業利益 (修正公表値)	対前年 増減率
国内温水空調機器	537	14	1,119	42	1,105	38	995	△11.1%	19	△54.8%
海外温水機器	77	△1	146	△6	150	△3	147	1.0%	3	—
住設システム機器	98	△7	201	△12	205	△8	182	△9.5%	△12	—
厨房機器	106	△3	250	1	260	3	245	△2.0%	5	400.0%
その他	45	3	95	9	80	5	79	△16.8%	7	△22.2%
連結合計	863	5	1,812	34	1,800	35	1,650	△8.9%	22	△35.3%

(参考資料) 2009年(平成21年)12月期 連結経営成績予想④

●通期主要品群販売台数 予想

(単位：千台)

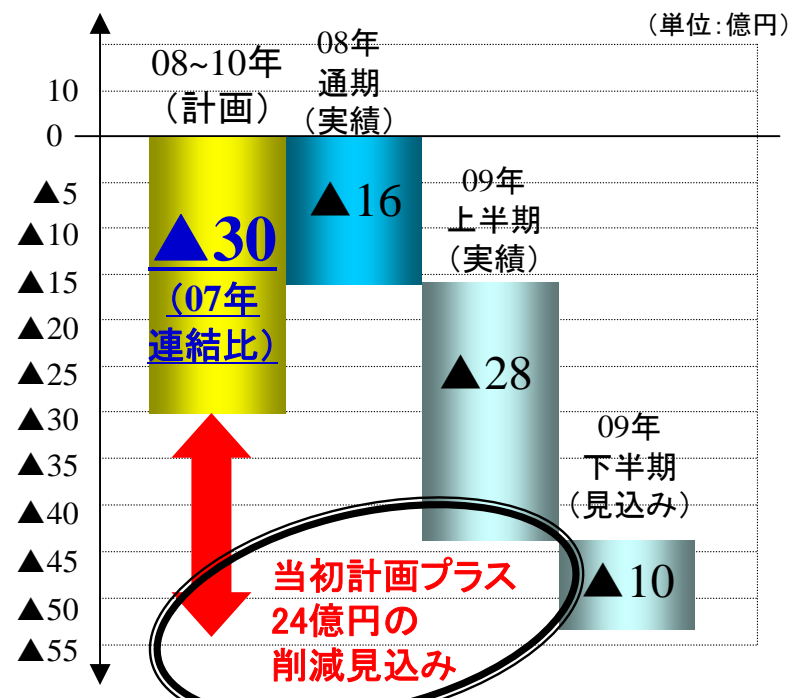
連結		08年(H20)12月期 通期		09年(H21)12月期 通期				
		台数	シェア	需要 (見込み)	前年比	台数 (修正計画)	前年比	シェア
温水 機器	ガス風呂釜	626	40%	1,418	92%	566	90%	40%
	ガス給湯器	385	34%	1,026	91%	360	94%	35%
	石油給湯器	121	38%	294	94%	118	98%	40%
	小計	1,132	38%	2,739	92%	1,044	92%	38%
	S B(戸建)	29	4%	661	92%	27	93%	4%
	S K(戸建)	12	2%	547	89%	11	92%	2%
	洗面	94	6%	1,485	90%	94	100%	6%
	ビルトインコンロ	380	35%	1,006	92%	362	95%	36%

※需要は全て当社推定

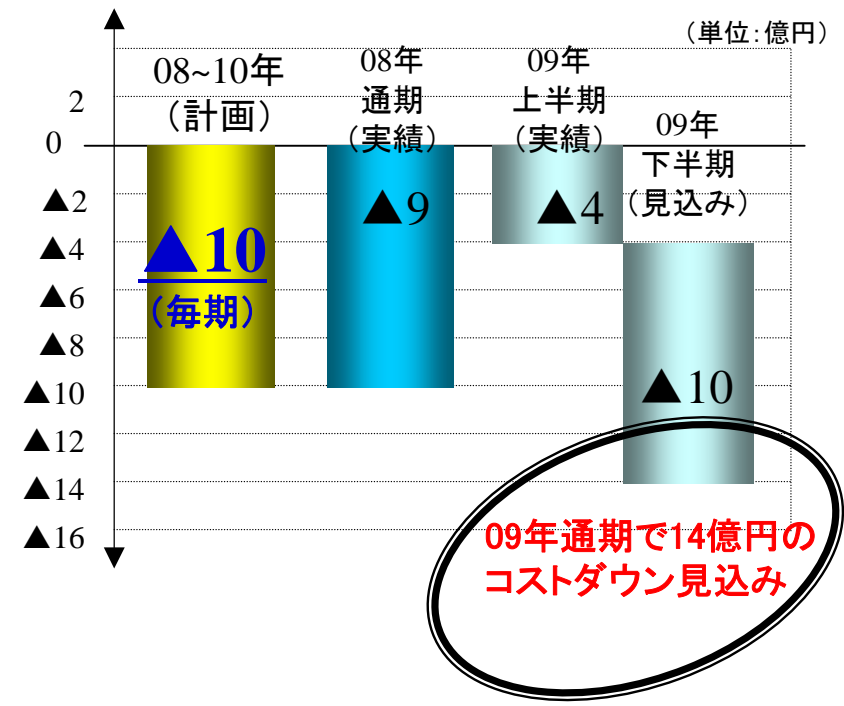
※ビルトインコンロは1口除く

第3次中期経営計画 進捗報告 -コスト構造の見直し-

◇固定費



◇原材料費 (コストダウン効果)



【主な政策】

- 営業拠点の統合・移転(国内、国外)
- 修理基準の再構築と管理徹底
- 人事制度・規定の改定、見直し

- システムバス生産拠点の統合
 - ・アールビー つくば工場に統合
- 温水機器生産拠点の統合
 - ・国内:ガス温水機器は明石本社工場に集約
 - ・海外:能率(上海)住宅設備有限公司に集約

※ ■は10年以降のコスト低減を見込む

第3次中期経営計画 進捗報告 —成長に向けた仕掛け—

◇技術・商品開発力の強化

—国内の環境・省エネ商品展開—



09年3月、環境保全に関する取り組みを環境大臣に約束しました。エコファーストの約束にのっとり、今後も環境経営を加速していきます。

●省エネ

◆高効率給湯器「エコジョーズ」のラインアップ強化

構成比率：(08年)16%⇒(12年)50%以上

- ・業務用32号「ユコアプロ」 下半期発売済
- ・家庭用ガス温水暖房付ふろ給湯器「GTH-Cシリーズ」下半期発売予定



●新エネ —新エネ分野の体制強化—

◆太陽熱エネルギーの高度利用

- ・太陽熱温水器 新ソーラーシステム(VFシリーズ)上半期発売
- ・太陽光発電 本格事業参入に向けた検証の開始

◆燃料電池

- ・家庭用燃料電池(SOFC)を他社と共同開発中
- ・家庭用燃料電池向け(PEFC)貯湯ユニットのOEM販売



第3次中期経営計画 進捗報告 —成長に向けた仕掛け—





◇技術・商品開発力の強化

—国内の商品展開—

—新機能開発により、湯まわり空間における提案力を強化する—



09年3月、環境保全に関する取り組みを環境大臣に約束しました。エコファーストの約束にのっとり、今後も環境経営を加速していきます。

事業	テーマ	分野	商品	
温水空調 機器	健康・美容	温水機能化 商品	  マイクロバブル 軟水器	上半期 発売済
住設 システム 機器	環境・省エネ 使いやすさ	システムバス	 ユパティオシリーズ クレッセ	下半期 発売
厨房機器	使いやすい デザイン	ビルトイン コンロ	 mi-fitシリーズ	下半期 発売

第3次中期経営計画 進捗報告 ―成長に向けた仕掛け―

◇国内の営業体制強化



09年3月、環境保全に関する取り組みを環境大臣に約束しました。エコファーストの約束にのっとり、今後も環境経営を加速していきます。

◆お客さまサポートの強化

- ・製品を購入されたお客さま情報の一元管理
- ・あんしん点検などお客さま向けサービスメニューの充実
- ・CS向上の取り組み実施
- ・グループ会社「ユービック」の拠点拡大

◆販売シナジーの追求

- ・(株)H&N設立
大阪ガス担当部門の集約による、営業効率の向上と事業拡大

◆機能重複解消と戦略的配置

- ・営業技術職の体制再編
営業、営業技術、アフターサービス3部門における機能重複の解消
- ・業務用需要に向け、専任体制を強化

第3次中期経営計画 進捗報告 —成長に向けた仕掛け—

◇住設システム事業

◆システムバス生産拠点の統合

◆JS販売推進部^(※1)を設置し、営業人員を需要により近いところにシフト

◆新商品 ユパティオシリーズ “クレッセ” 下半期発売予定

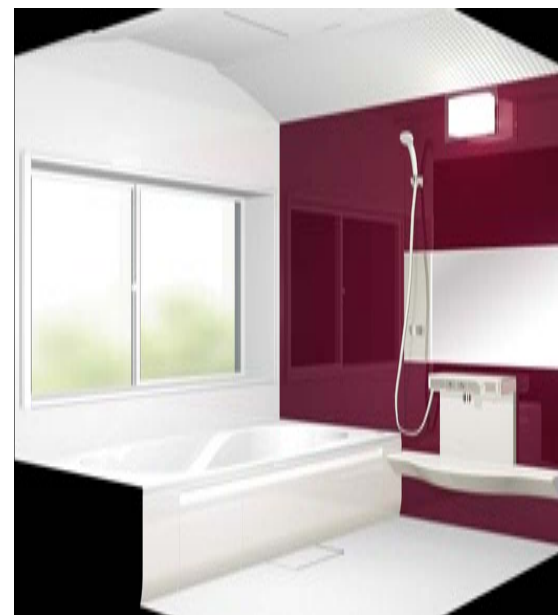
(商品コンセプト)

“クリーン” & “エコ”

- ①アクリル内製技術—新アクリル素材の拡大
- ②くつろぎ浴槽(+Eco)設計技術
- ③温水機器+温水端末+新商材^(※2)のセット提案



09年3月、環境保全に関する取り組みを環境大臣に約束しました。エコファーストの約束にのっとり、今後も環境経営を加速していきます。



※イラストはイメージになります

※1:住設システム機器の販売推進と増量化を目的とする組織

※2:新商材=温水機能化商品(マイクロバブル、軟水器など)

第3次中期経営計画 進捗報告 —成長に向けた仕掛け—

◇海外の事業体制強化

現在、合計17カ国で海外事業を展開中
(NRブランド、OEM合計)

◆環境、省エネ、安全、安心、次世代標準をにらんだ新技術・新商材の開発

- ・事業展開エリアで省エネルギー機器プログラム・基準に対応
- ・北米ではタンクレス全機種のエナジースターを取得
- ・6つの国と地域で業務用、家庭用の高効率給湯器を展開
- ・上海の上海科学省エネ展示館内で能率商品の展示を開始



上海科学省エネ展示館

対応済の各国省エネルギー規制

※は税制優遇制度あり

米国※

ENERGY STAR



中国※

中国能效標語



豪州※

STAR RATING



ブラジル

PBE(Energia)



台湾

節能標章



第3次中期経営計画 進捗報告 ―成長に向けた仕掛け―

◇海外の事業体制強化

◆上海新工場で生産する高品質な製品による世界展開

- ・給湯器の輸出先を5カ国(日本、ブラジル、豪州、イタリア、スペイン)に拡大
- ・温水機器主要部品の統一した品質管理による内製化の推進



内製部品の組立工程



内製部品の最終検査工程



基本性能検査ライン

◆ショールーム、トレーニングセンターの活用

- ・ショールーム活用やトレーニングセンターでの施工メンテナンス研修の強化により環境配慮型商品など付加価値商品の拡販につなげる



ショールームイベント



ショールームでの施工メンテナンス研修

2009年(平成21年)12月期 通期 連結経営成績予想⑤

●設備投資額・減価償却費・研究開発費 見込み

(単位：億円)

連結	設備投資額			減価償却費			研究開発費		
	08年 (H20) 12月期	09年 (H21) 12月期		08年 (H20) 12月期	09年 (H21) 12月期		08年 (H20) 12月期	09年 (H21) 12月期	
		計画	通期 (見込み)		計画	通期 (見込み)		計画	通期 (見込み)
国内	52	51	43	61	60	54	—	—	—
海外	8	4	4	5	4	3	—	—	—
合計	60	55	47	66	65	57	56	54	54
(内) 金型投資	(18)	(22)	(18)						